

2007.1.1発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦
 連絡先 04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



大工ノキは残った 川越 砂久保橋

恐さを知って川と親しむために

魚獲りに目をキラキラさせて夢中になって川中を走りまわっている子供達の姿を見るにつけ、大人になって、「小鮒釣りしかの川」と歌った時、思い出すふるさとの風景を何人の人が持っているだろうかと思う。川は身近にあって、自然に触れる喜びと自然の不思議を教えてくれる絶好の場であるにもかかわらず、行政は多くの川を切り立ったコンクリートと柵によって人間と無縁の存在にしてしまった。

数年前、玄倉川の中州でキャンプ中の人達が、避難指示に従わず洪水で死亡するという悲惨な事故が発生した。この人達が川の恐ろしさを知っていたらこんな事故は起こらなかった。行政が人間を川から切り離れた結果、川の楽しさも恐さも知らない人間が多くなった。フランスでは幼児期に着衣のままの水泳訓練を行って自分の身を自分で守ることを教える。日本では川の事故は往々にして行政の責任とされ、行政はその責任逃れのために人間をますます川から遠ざけようとする。川の恐ろしさを教え、自分の身は自分で守ることを教え、その上で、川を利用して自然と親しむことの楽しさを教える、それが本当の教育だと思う。国土交通省が6年前に提起した「自己責任」の考え方が行政にも市民にも殆ど浸透していない、そんな現実を放置しておいて本当に良いのかと思う。

(小黒)



フユ/ハナフラビ

大森の池の西側、私たちが植樹した場所に数年前から顔を出してきた。林が順調に育ったあかしである。

私たち「平野の森こどもエコクラブ」は、ふだん雑木林で活動しています。そして年1回「荒川クリーンエイドin不老川」に参加しています。4回目の今年は狭山市入間公民館から新入曽橋までのコースです。

出発してまもなく不老川に着くと、ケヤキやクヌギの大木が私たちを出迎えます。「気持ちいいねー」子ども達は土や草の土手を足取りも軽く歩いて行きます。地域の人がゴミ拾いをしているので大きなゴミはなく、布団カゴにビニール類が引っ掛かって入るのが見つかりました。子ども達は急に飛び上がるカルガモにびっくりしたり、赤や黄色の巨大なコイに驚いたり、そして何よりも友達との会話を楽しみながら歩いていました。

入曽橋をすぎると兩岸の樹木が川辺を覆

い、葉っぱのトンネルになっていました。

新入曽橋に着くと、パックテストや透視度計で水質調査を行いました。水量が多く水がきれいに見えました。しかし窒素の値が上流よりも高く、目には見えない汚れがあることも知りました。そして残された楽しみは、会の人々が毎年作ってくれる蒸かし芋と豚汁の昼食です。きっと子ども達は今日の体験をいつの日か思いおこしてくれることと思います。

(「平野の森こどもエコクラブ」サポーター)



川歩き

秋の草花観察 10月12日

秋に草花を観察しながら散策することは、春に比べて少ないものです。いま一つ地味で雑草に見えてしまうからでしょうか。そんな雑草たちを理解するのに良い機会だと思ひながら川沿いを歩きました。今回も案内役は関口さんです。



ハキダメギクとは
気の毒な...

当日の空はすがすがしく晴れわたり、地域の方の参加も多くありました。しかし残念なことに、土手は数日前にすっかり草刈りをされていたのでした。仕方なく、刈り残しの中から花を見つけて歩くことになりました。普段は雑草扱いの植物が希少種のように感じてしまったのは皮肉なものです。それにしても、その名の由来を聞くたびに「なるほど!」と先人のネーミングのセンスに感心させられます。

鳥を探して不老川 12月7日

この辺りにはどんな鳥がいるのかしら? ということで、初冬の不老川を、鳥を探しながら山王塚まで歩きました。入間川の吉本さんご夫妻が案内してくださいました。参加者18名

観察できたのは13種(ヒヨドリ、シジュウガラ、スズメ、メジロ、セキレイ、キセキレイ、セグロセキレイ、カルガモ、コガモ、ムクドリ、ハシブトカラス、キジバト)。どれも普通に見られる野鳥たちでした。鳥たちに出会うのにはタイミングがあるそうで、何度も注意して観察することが必要なのでしょう。そうすれば他の仲間も見つけられるかも知れません。そのうち鳴き声だけで鳥の名前が分かるようになったら素敵です。(田端)

狭山市入間川中学校地域交流会 10・28

当日は、地域で活動したり仕事をしている人が講師に招かれました。1年生のテーマは環境でした。当会は1年3組を担当。34名の生徒に不老川の源流から新河岸川の合流点までをパワーポイントで案内しました。いつも見慣れた入間川に比べ、小さな不老川の様子に興味を持ったようでした。生徒の感想に「蛍やホトケドジョウガすんでいるのに驚いた」、「人間が日本一汚い不老川にしてしまったけれど、またきれいにしたのも人間だ」等とあり、しっかり受け止めていました。(遠藤)

砂久保橋の大エノキを守った

市民発：砂久保橋畔整備方針案

これまでの経過・その後

“川のささやき”前2号でお伝えした川越市の砂久保橋畔にある大エノキと供養塔の撤去方針について、当会は県に保存を申し入れてきましたが、昨年7月になって撤去は砂久保橋の架け替えによるものと判明しました。当会では検討を重ねた上で会独自の「砂久保橋橋畔樹保全に関する提案書」を作成し、同8月25日に事業担当者である埼玉県川越県土整備事務所に提出しました。

その約一ヶ月後、事業担当者から「撤去しないことに確定した」と連絡があり、私達はようやく大エノキと供養塔を守ることが出来たようです。

提案書の内容は

当会の10年にわたる活動と、多様な視点からの実地調査や課題を整理し、40ページの冊子にまとめたものです。

§ 現地調査とエノキの状況調査

何度も現地へ足を運び、橋の周りの道路や街並み、自然環境について情報収集していった。河川工事の状況、橋とエノキの位置関係、幹周り、樹高も計測した。エノキの歴史的意義と石橋供養塔から、樹齢を200年と推定した。

§ 関連計画の把握とエノキの位置づけ

改正河川法や埼玉県の河川整備計画、自然保護方針、川越市の振興計画、土地利用等を調査した。そこからこの大エノキが河道外にあり川越市の保存樹としての要件を備えていることがわかった。

当会で調べた10年に亘る不老川全体の植物調査から、エノキの位置づけを行った。

§ 通学路

橋の架け替えで問題になるのは歩道部分、特に近隣小中学校の通学路だったので、地元の会員が中心になってより良い通学路を再検討した。

更に、通学路の将来像をも提案している。

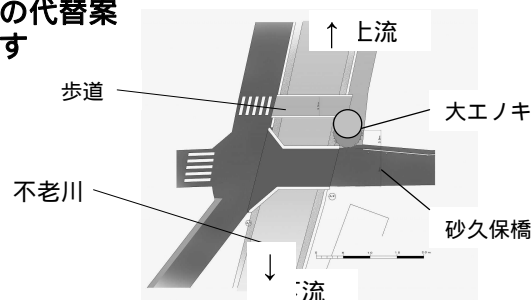
§ 景観分析

エノキを伐った場合と現状のまま、画像によるシミュレーションを行い、多方面の観点から比較評価した。(経済性以外の)評価のどの項目もエノキを残す方向に優位性を示した。

§ 課題をまとめて

市民発「行政と市民が協働し、不老川の貴重なエノキを保全し、後世に歴史と文化を継承させる砂久保橋畔整備」方針が出来ました。

§ 最後に橋の代替案の提案です



私達が投げたボールは

どう受け止められたのでしょうか。とりあえずエノキの保全には成功しましたが、橋周辺の整備は未知数です。私達は今後も行方を見守っていきこうと思っています。(丸橋)



写真は
画像による、景観
シミュレーション
左は保存案
右は伐採案



川の日ワークショップ関東大会

11月11日 荒川学会同時開催 於江東区

7月7日の全国大会に向けて、荒川や多摩川・相模川流域などの活動団体が集まり、日頃の活動を楽しく発表した。特に子供たちの活発な活動には目を見張らせられる。自分達の“いい川(づくり)”について互いに意見を交わし、励まし合った。参加団体の中からグランプリ1・準グランプリ3団体が選ばれ、全国大会で覇を競う。新河岸川水系からは柳瀬川のNPOのエコシティ志木が「河童のつづら・志木まるごと博物館」で準グランプリに選ばれた。おめでとう! がんばってね!

河畔の樹木調査

不老川の全体像を探して

川の工事をする人は彼ら手持のパターンで工事を進めようとしています。それは安全性、経済性で改めて検証する必要が少なく効率的だからでしょう。

一方私たちは橋畔の木を残してくれ、川に親しめるようにしてくれなど必要性が具体的でなく、工事をする人には私たちの提案が比較検討の材料になり得ず、私たちも彼らの持つ経済性に対比出来る迄提案を推し進めなかった。

木の幹周り、高さを測り、場所の歴史を調べ、この樹は推定何百年ここに人々と共に生き働く人に木陰を与え、道行く人の目印となり、大水から橋を守った。だから今日迄守られた。またこれから私たちに何をしてくれるか。

これらを一一つ評価すれば必要性が具体的に表れないか、それが先に出した砂久保橋の提案書です。

砂久保橋から全流域に視点を拡げ草木、昆虫、魚などの生き物の調査、今と昔の川筋、岸の有り様など地理的な観察、川がもたらした文化の習得が進めば、自ずから不老川のあるべき姿が見えるでしょう。

昔習った「山の向うに何がある・山の向うは海だったひろいひろい海だった」そんな展望を期待しています。(中田)



この木なんの木気になる木?

講演会 志木まるごと博物館

「河童のつづら」

荒川・新河岸川・柳瀬川と市内を三つの川が流れる水のまち志木市 ここで生まれた河童達は志木をまるごと博物館にしようと“お宝発見ツアー”に出かけました。

さあ河童のつづらにはどんなお宝が入ったでしょうか。新河岸川流域の川仲間が、映像を交えて志木のお宝を紹介します。

開催日時 3月4日(日) 午後1:30～3:30

場所 狭山市入間公民館

講師 NPO 法人「エコシティ志木」
毛利将範さん

参加費 無料

主催 不老川流域川づくり市民の会 & 狭山市入間公民館

申込先 入間公民館 2957-6615
または丸橋 2959-3831

川づくりに参加しませんか

定例会：毎月第3土曜日 13:30～

年会費：1,000円詳細は下記世話人まで

入間市：相馬04-2965-1741

狭山市：丸橋04-2959-3831

所沢市：高松04-2948-5815

川越市：高木0492-49-9828

流域情報

11月4日 新河岸川現況調査(川下り) 39名

新河岸川水系水環境連絡会では、ボート(10人乗り)から見える範囲の右岸、左岸、鳥、魚、水温など観察した。当会員2人参加した。参加者の多くは、豊富な知識を持ち、環境問題に真剣に取り組んでいた。

11月16日 12月21日 山王塚市民緑地手入れ

笹刈りに精を出す。いままで笹に埋もれて行方がわからなかったツルウメモドキのブランコが姿を現した。笹刈り大体終了。これからの作業は、道づくり、樹の名札付けなどを行う予定。遅く伸びてきたツルウメモドキのツルが切られていた。誰が、どうして?

11月26日 「身近な川の一斉調査報告会 2006」

朝霞リサイクルセンターで、6月に行われた水質調査の報告会がありました。中学生・高校生の川に関する発表がありました。

過去8年間の不老川のデータがあり、今後はどのように活用すべきかで考えていきたいと思います。

12月10日 新河岸川流域川づくり懇談会

新河岸川流域水系の平成18年度の工事状況・19年度の工事計画が埼玉県川越県土整備事務所より報告されました。問題点などの意見交換がありました。

編集後記

2006年の世相を反映した漢字一字に「命」とありました。自殺・虐待・飲酒運転などで命を失った人・人。

2007年が、人間・動物・植物・地球に優しい年になってもらいたいですね。不老川をやさしい目で見守っていこうと思います。(Y・Y)